



## 現代神学の冒険 新しい海図を求めて

芦名定道著

◆ A5判・並製・358頁・本体3400円

混沌・複雑化する神学状況に、  
鮮やかな展望を与える！

いま現代神学は何を問題としているのか？  
それらの課題とどう取り組んでいるのか？  
神学の主体は誰か？

現代社会の抱える諸問題が多様化・複雑化していく状況に応じて、神学の課題も多岐にわたり、様々な方法論や主張が交錯している。著者は、驚くべき該博な知識と鋭利な分析力によって現代神学の思想的課題を明らかにし、進むべき方向性を展望する。キリスト教の現在と未来を考えるために必携の海図がここにある！  
『福音と世界』好評連載の単行本化。

2月25日発売

著者 あしな・さだみち氏は1956年生

まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程退学。京都大学博士（文学）。著書、『アフリックと弁証神学の挑戦』（創文社、1995年）、「自然神学再考」（晃洋書房、2007年）、「近代日本とキリスト教思想の可能性」（三恵社、2016年）など。

### 【目次より】

- 序 冒険への招待
- I 現代神学とは何か
- 1 弁証法神学の意義
- 2 ポスト近代とは何か
- 3 現代神学をどう見るか方法と視点
- II 現代神学の海図に向けて
- 4 現代神学と聖書社会教説から社会神学へ
- 5 現代神学と政治
- 6 現代神学と経済
- 7 現代神学と環境
- 8 現代神学の海図の枠組み
- III 「解放の神学」系
- 9 解放の神学の現在
- 10 宗教社会主義の遺産 解放の神学の前史
- 11 フェミニスト神学から「性」の神学へ
- 12 黑人神学と人権の神学
- 13 民衆神学の新しい可能性
- 14 アフリカ神学の挑戦
- 15 「宗教の神学」の行方
- 16 戦争と平和
- 17 宗教的寛容と不寛容なリスク世界
- IV 「科学技術の神学」系
- 18 「科学技術の神学」系とは何か
- 19 生命の神学 1 脳死・臓器移植の問題を検証する
- 20 生命の神学 2 遺伝子工学の挑戦
- 21 生命の神学 3 環境倫理と動物倫理
- 22 言語論から見た現代神学
- 23 心の神学 1 脳・心・キリスト教神学
- 24 心の神学 2 心を科学する時代
- 25 原子力の神学 原爆と原発
- 26 文明論を神学する都市とキリスト教
- 27 キリスト教思想と科学論
- 28 進化論の問題
- V 現代神学を展望する
- 29 エキスプレズムの可能性
- 30 実践神学の意義
- 31 神学とは誰のものか

# 平和憲法とともにもに

## 深瀬忠二の人と学問

◆四六判・353頁・本体2000円

### 稲正樹・中村睦男・水島朝穂 編



深瀬忠二（ふかせ・ただかぜ、1927―2015）は、陸軍幼年学校、陸軍士官学校を経て東大に学んだ。敗戦による価値の崩壊を通してキリスト教信仰と出会い、憲法学を志すようになった。北海道大学法学部で長く憲法学を講じ、恵庭訴訟・長沼訴訟などの憲法裁判に深く関与しつつ、画期的な平和的生存権の理論を構築するなど、理論と実践の両面で平和憲法の定着のために生涯を捧げた。本書は、深瀬の衣鉢を継ぐ27名の者たちが、憲法学、憲法訴訟、平和運動、信仰生活など多方面から彼の歩みを振り返り、平和憲法が危機にある今日、人々が平和に生きる権利を守るための新たな取り組みに向けて、力強いメッセージを紡ぎ出そうとする論集である。

【寄稿者】 西村裕一／蟻川恒正／志田陽子／小林武／水島朝穂／岡田信弘／高見勝利／中村睦男／野崎健美／内藤功／福原正和／山本光一／前田輪音／小林亮夫／稲塚秀孝／笹本潤／池田賢太／深瀬ふみ子／野村永子／小野善康／高崎裕子／吉田行男／橋本左内／大友浩／千葉眞／清末愛砂／稲正樹

## ●最近オンデマンド化された書籍

### 荊冠の神学 被差別部落解放とキリスト教

栗林輝夫

◆A5判・545頁・本体7800円

差別を発生させる文化的・社会的メカニズムを精緻に分析し、その批判と克服のためのキリスト教的視座を確立した、日本における解放神学の記念碑的著作。

### 新約聖書神学I ブルトマン著作集3

R・ブルトマン／川端純四郎訳

◆A5判・232頁・本体5000円

20世紀聖書学の代表的業績の完訳。第1巻は「新約聖書神学の前提と動機」。イエスの告知と原始教団のケリュゲマを歴史的に解明。

\*『新約聖書神学II』は既にオンデマンド化済み、IIIは既刊書在庫あり。

W・フーバー著／宮田光雄監修／佐藤司郎・木部尚志・小嶋大造訳  
**正義と法** キリスト教法倫理の基本線 「仮題」

われわれの全生活に影響を及ぼす法。正しい法とは何か、法と倫理あるいは正義と法はいかに関係するのか。法の神学的基礎を探り、人権を最重要価値として、複雑な現代世界における法治国家のあるべき姿を論じる。著者はキリスト教社会倫理の泰斗、ドイツ福音主義教会監督、またWCCの指導的神学者として活躍した。待望の邦訳。

◆A5判・予価9500円

月本昭男著

**詩篇の思想と信仰** 第101篇から第125篇まで

『福音と世界』好評連載の単行本化がついに完結。精密な語釈と、古代オリエント周辺世界への該博な知見によりながら、独自の唯一神信仰が生んだ神賛美の特質を浮き彫りにする。詩篇を深く学び味わいたいと願うすべての人の必携書。

◆四六判・予価3600円

ジェイムズ・H・コーン著／榎本空訳

**誰にも言わないと言ったけれど** 黒人神学と私

黒人解放の神学の先駆者コーン（1936―2018）の神学的自伝。過酷な人種差別の経験、黒人神学者としての使命と苦難、キング牧師やマルコムX、ジェームズ・ボールドウィンらの先人や、黒人民衆への思いを率直に吐露し、自らの人生のすべてを明かした最期の書。

◆四六判・予価3000円

● 1月に出た本と雑誌

## 政治神学の想像力

政治的実践としての典礼のために

ウィリアム・T・キャヴァノー／東方敬信、田上雅徳訳



現代世界を席卷するネオリベリズムに、キリスト教はいかに対抗しうるのか。国家・市民社会・グローバル化を支配する「規律化された想像力」を別括し、「もう一つの想像力」を

キリスト教のストーリーから回復しようとする試み。本書は、その可能性を、聖餐、すなわち地上における一つの場所・時間の中で天上の普遍的なカトリカを実現する典礼の中に探る。新たな政治神学であり、新たな教会論・礼拝論でもある。

◆四六判・本体2500円

## 福音と世界

2月号 障害に根ざす

◆税込647円

寄稿者：岡部耕典、三井さよ、美馬達哉、市野川容孝、猪瀬浩平／藤原佐和子／好井裕明、土井健司、マニユエル・ヤン、松本あずさ、長谷川修一、辻学、山口政隆、石井光太、内田樹

●今月の『福音と世界』は連載「くまさんのシネマめぐり」に「今月のこの1作」と映画づいていますが、ここでもう一本ご紹介を。路上生活者・路上生活経験者で構成されたダンスグループ「新人Hソケリッサー」の活動を追ったドキュメンタリー『ダンシング・ホームレス』（三浦渉監督）です。試写状をいただき観に行ったのですが、あつというまでの二時間でした。登場するのはソケリッサーの主宰者・アオキ裕キさんをはじめ、四〇〇七〇歳までの多様なダンサーたち。売上の一部が直接収入となる雑誌『ビッグイシュー』の販売などでかれらが生計を立てる場面と、ダンスの練習やワークシヨップ、路上での公演などを織り交ぜながら

作品は進行していきます。もともと、そこで描かれるのはホームレスの社会復帰などといったありきたりな物語ではありません。それぞれの人生を生き抜いてきた身体から繰り出されるダンスは、他からの意味づけを拒むかのように（じつさいソケリッサーではやりたくないことは無理強いしません）圧巻です。ただ、この作品がいいなど個人的に思ったのは、さらにその先。釜ヶ崎の夏祭りでソケリッサーが公演する場面、観客からの意表を突くような反応や、やや落ち込むメンバーの姿をとくに着地点なくそのままに映す

のです。わかりやすいカタルシスを用意せず、いまを生きる身体それだけに賭ける映画の姿勢は、ソケリッサーと共振しその魅力を引き出すことに見事に成功していたのではないのでしょうか。『ダンシング・ホームレス』は三月七日（土）よりシアター・イメージフォーラムほかにて全国順次公開、必見です。（堀）

●出版科学研究所によると、昨年1〜12月の出版市場は前年比0・2%の増加に転じたそうです。これは出版市場の縮小が始まった1997年以来的こと（ただし04年のみ例外的に0・7%増）。すわ朗報かと思いきや、これは紙と電子を合わせた売上上で、紙の書籍・雑誌はやはり前年比4・3%減でした。対して電子が23・9%増と大幅な伸びです。電子の中では文字物書籍が9%増、コミックにいたっては30%増。紙と電子を合わせた販売額は1兆5432億円ですが、電子は調査史上初めて3000億円台に乗り、占有率は既に2割に達する勢いです。このまま紙が減って電子が増えれば、当然いずれは逆転するでしょう。私たちの読書の「かたち」が激変することは避けがたい趨勢と思われまます。その時まさかコミックだらけになるとは思えませんが、読書の「なかみ」はどのような変化を遂げているのでしょうか。（望）

# 福音と世界

2020年  
3

A5判・80頁・定価635円・送料70円  
年間予約購読料（送料共）8460円

特集・リプロダクティブ・ヘルス&ライツ

リプロvs人口政策・家父長制 —— 大橋由香子  
激化する中絶論争

米国でなにが起きているか —— 芦野由利子

日本における中絶の実態 —— 塚原久美

障害のある女性たちのリプロダクティブ・ヘルス&ライツ&フリーダム —— 瀬山紀子

キリスト教とリプロダクティブ・ヘルス&ライツ —— 再度、人工妊娠中絶をめぐる —— 大嶋果織

つながる現場としての「からだ」 —— 原点を確認する —— 高橋さきの

【今月のこの1作】『グリーン・ライヴエコの嘘』

【注目の連載】

- ◆くまさんのシネマめぐり 3 …………… 好井裕明
- ◆教父学入門 7 …………… 土井健司
- ◆バビロンの路上で 12 …………… マニエル・ヤン
- ◆神の酒 12（最終回） …………… 石井光太
- ◆新約釈義 テトス書 12 …………… 辻 学
- ◆福音書記者たちの饗宴 15 …………… 松本あずさ
- ◆遺跡が語る聖書の世界 15 …………… 長谷川修一
- ◆レヴィナスの時間論 59 …………… 内田樹